

輪島市復興まちづくり計画策定に係る住民懇談会（諸岡・黒島・阿岸・仁岸地区）
結果概要

日 時 令和6年8月23日（金） 18:00～19:30

場 所 門前会館 3階ホール

出席者 住 民：25名

行政側：輪島市 坂口市長、中山副市長、小川教育長、中村門前総合支所長、中前
総務部長、山本企画振興部長、池腰市民生活部長、刀祢健康福祉部長、永
井産業部長、福尾建設部長、田川建設部技監、木下教育部長、まちづくり
推進課上島課長

事務局：復興推進課 田中課長

①市長挨拶

（坂口市長）

- 本日は出席いただき感謝する。元日の震災からやがて8ヶ月が経とうとしているが、これまで皆様には大変な御苦勞をされてきていることと承知している。現在、皆様のおかげで応急的な復旧が何とか完了して、仮設住宅も市全体では87%ほど完成しており、門前地区分は完了している。公費解体も現在の70班体制から、9/2からは220班体制で進めることとなっている。ようやく復旧も進捗が見られるようになってきたが、本格的な復旧が完了するにはまだまだ時間がかかると認識している。
- しかし必ず、震災前よりも豊かで魅力ある安心して暮らせる輪島市、門前町を皆さんと一緒に力を合わせて作っていくので、どうぞよろしく願います。その復興のためには指針となる計画が必要であり、本日は復興まちづくり計画の基本構想（案）を説明する。東北大学の姥浦先生を委員長としてこれまで3回の委員会を開催したところで、復興まちづくり計画の基本構想（案）をとりまとめたので、本日皆さんの意見を頂ければ幸いである。

② 復興まちづくり計画の基本構想（案）等の説明

（市長より資料に沿って説明）

③ 意見交換・質疑応答

住 民：まちづくりアンケートの結果については公表されないのか。また、仮設住宅の下水道料金について、道下第一～第三仮設住宅では、第一と第二団地は浄化槽設備を使用しているので下水道料金が発生せず、一方、第三では下水道に接続しているので料金が発生していると聞いた。第三に入居している方は今後2年間、不公平感を感じて生活することになるので、下水道料金の減額などを考慮いただきたい。希望して入居したわけではなく、輪島市から指示されて入居している訳であるので、被災者に寄り添った対応をしてほしい。

市 長：アンケート結果は後日報告する予定である。

まちづくり推進課長：仮設住宅の整備を始めた当時は下水道の被害も大きく、暫定的に浄化槽を設置していた。一方、新しい建物は下水道に接続しているため料金が発生している。暫定的に浄化槽で整備した建物は、時期を明示することはできないが、下水

道局と協議し、市で下水道をつなぐことが決定している。下水道に接続した場合には、下水道料金が発生することになる。状況に応じた対応だということで、ご理解いただきたい。

市長：仮設住宅の下水道料金に関する不公平感については、庁内で確認して検討したい。

住民：門前西小学校の今後について、校庭に仮設住宅が設置されているが、個人的には学校としての役目を終えたと感じている。そこで、①他県から来られている公費解体の業者の方が七尾や金沢から通勤していると聞き、体育館や給食施設があるので、宿舎としての活用ができないか。②公費解体が進む中で、管理は自己責任だろうが、家財の置き場として活用できないか。③中庭に駐車場が作ってあるが入居されている方は仮設住宅の近くに停めており、駐車場には停めている人がいない。費用対効果も含めて考えていただきたい。

市長：門前西小学校の今後については、統廃合を議論してきた検討委員会が震災で中断していたが、再開予定である。家財の置き場もご意見が多いが、置きっぱなしになることへの危惧や十分なスペース確保の難しさから、ご自身で対応いただいている状況である。宿舎としての活用は有効だと思われるので検討したい。

教育部長：本来であれば学校の統廃合を含めて学校のあり方検討の委員会で検討予定であったが、災害復旧の状況を踏まえつつ学校活用を考えていく段階であり、学校としてや宿泊施設としての利用など、意見を調整しながら検討したい。

まちづくり推進課：駐車場については、仮設住宅の利用の状況も踏まえて検討したい。

門前総合支所長：第二団地を建設する際に、付近に駐車場がなく、道路に駐車される方が多く、通行が困難になったという声を聞いて、中庭に駐車場をつくっていただいた。数台は停めている方もいらっしゃるの、団地の入居者とも相談しながら、中庭の駐車場に停めていただけるようにするので、利用においてご協力をお願いしたい。

教育部長：再度補足させていただきます。門前西小学校の利用については、宿舎としての利用や企業の利用の提案があろうが、現状は学校施設であり、文科省の目的外使用の申請をしたが、避難所の利用は市の地域防災計画での指定の状況もあり可能だが、宿舎としての改装には文科省との協議や小学校廃止に手続きが必要となる。仮設住宅の使用期限の2年も踏まえて協議をしていきたい。

住民：住宅は個人の財産だと理解しているが、輪島モデルの仮設住宅に入られた方はずっと住み続けられると聞いているが、家を建てることができない住民に対して県か市で対応してほしいという要望がある。また、輪島モデルの仮設住宅の建物について、今後のためにも、もっと供給いただきたい。

市長：応急的な仮設住宅から自力再建できない世帯には配慮してほしいという御指摘である。輪島モデルも他の建設型仮設住宅も広さは基準に基づいているので同じである。自力再建が難しいという方に対しては他の方策として、災害公営住宅を整備して、入居いただくこともできるようにする。一概には言えないが、応急仮設住宅の倍の広さがある。そして家賃も払っていただく。ただし、入居には半壊以上の方であることや、所得制限があるということをご理解いただきたい。その他、自立再建をされる方には様々な支援を検討している。公営住宅としての管理上、立地については相談しながら検討していくことになる。

住 民：アマゾンや楽天などのネット通販から食品を購入できるが、そういったところよりも地元で買い物する場所が欲しく、そのような企業を誘致してほしい。アオキやゲンキーの商品だけでは、生鮮食品などが不十分である。

市 長：生協のスーパーが閉まっているが、ああいったところが残っていただきたいと思う。JAが前向きと伺ったので、市として要望していきたい。

住 民：農地の災害復旧の査定に入っていると説明があったが、営農について将来的な見通しが立たないので、早いうちに情報をいただきたい。

市 長：農地・農業施設について災害査定を受けているところでなかなか手が回らず、県の協力も受けながら対応している。県も必死に対応しているところであり、できるだけ早い情報開示を依頼していきたい。農業のあり方は一概に言えるものではないが、能登の里山里海のいち早い復旧復興は進めていきたい。

産業部長：1700箇所ぐらいの工事が必要であり、年度内の査定に向けて準備をしており、ご理解いただきたい。

住 民：道路が凸凹で亀裂があり、除雪が大変であろうから、対応をお願いしたい。

市 長：応急復旧は今なんとか通れるところまで来たが、除雪ができるほどの本復旧は災害査定が終わってからでないとできない。除雪が不安であろうが、除雪をしないわけではなく、除雪業者も厳しい中、これまでのように丁寧で速やかにできないかもしれないが、実施していきたい。

建設部技監：市長のほうから回答があったが、除雪の精度が悪くなったり、時間がかかったりするだろうが、しっかり対応していきたい。

住 民：罹災証明のための被害認定調査の再調査の期限が7月いっぱい終了したと聞いた。2回目で準半壊ということであった。柱が傾いたままで生活するのは難しいので、そういった場合の判断はどうなっているのか。準半壊と半壊の基準は、どのようになっているのか。

市 長：今回の調査結果については、担当から後日詳しく説明するようにするので、ご納得がいくまで確認してほしい。

まちづくり推進課：準半壊であれば、応急修理制度を用いて修理をすることができる。また、基礎の傾きについては、被災宅地復旧事業で、50～1200万円の3分の2を助成してくれる。耐震改修工事に対する助成もあり、今回の被災で昭和56年以降の建物も対象となった。付帯工事も含めて200万円まで助成を受けられる。詳細については、まちづくり推進課まで相談をいただければ、建築士が説明をするので、相談いただきたい。

住 民：道路の陥没や穴の開いたままの箇所について、砂利で応急処置をしてほしい。

市 長：場所を確認して、できるだけ早期に対応を検討する。

建設部技監：冬の除雪まえに主要な幹線道路を保守していきたい。ご指摘の箇所は位置を確認して対応できるか確認したい。

住 民：行政の手厚い支援には感謝している。子供たちが安心して遊べる場所がないので、かほく市や加賀市、羽咋市にあるような子供たちが室内で遊べる全天候型施設を確保してほしい。子供たちが遊びながら、食事しながら親がくつろいだり、高校生が集えるような施設があればよい。ただ、だいぶ先のことなので、今の門前には子供たちが遊べる場所がなく、道下の松風台に農村公園があるが、そちらに遊具があって授乳もでき、水遊びができる公園を整備してほしい。現在、水もなく遊具もないので、子供たちの遊べる施設の優先順位を上げて検討してほしい。イメージとしては、津幡町の新たな公園、穴水町の丸岡クリニック横の公園をイメージしている。子どもたちが安全に遊べる公園の整備に予算を割いていただきたい。これからも門前町で子供たちを育てていきたいと思っている。積極的にまちづくりに関わっていききたいと思っているので、子供が育つ環境の充実をよろしくお願ひしたい。

市 長：前向きなご意見に感謝します。そのような施設を各地区にそれぞれ整備することは難しいだろうが、子供たち向けの屋内の遊び場等について現段階では具体的な計画はないが、利用しやすい範囲には設けるように検討したい。

住 民：阿岸地区と仁岸地区の公共施設について、公共施設だから公費解体の対象外だと思うが、ますます傾いているように感じる。阿岸の方では道の駅赤神が観光の目玉としてあるが、まだ再開できていない。利用価値があるうちに運営者となる民間に活用してもらえるようにしていただきたい。

今現在は、仮設住宅になっておりグラウンドゴルフをする場所がないという話を聞いている。グラウンドゴルフ場を市民に開放して使えるようにするという話も聞いたが、公共施設をこれからどのように活用していくのかについてお聞きしたい。

市 長：施設については、国に解体を要望したが、対応が難しいとのことであった。じんのびの湯は皆さんが使えるように改修いただいております、門前交流促進センター夕陽も置かせていただいております。震災で運営企業が被災してしまっているが、正式なものではないが運営したい方もいるようではある。施設の被害がひどいという話は市に共有しておく。道の駅もできるだけ早く再開できるように動いていきたい。

門前総合支所長：買っていた文化村は地元への開放も考えているそうだが、駐車場に従業員宿舎を建てた都合で、来訪してもらえない状況。何かできないか相談していきたい。

住 民：計画が向こう10年のことになるので、進捗管理のために数値目標が必要であろう。震災発生からを踏まえた、どのような数値目標の達成を想定しているか。

市 長：厳しいご指摘である。復旧復興の目安として10年間をめどに進めていきたいという思いは持っている。10年後の目標値についても検討したいが、東日本大震災をみると、人口が半分程度になった町もあり、時間がかかると人口流出するので、まずは初期の3年でできるだけ元に戻す。その時点その時点の現実・課題・達成したものを確認してステップをきざんでいきたい。今日は構想案ということで、このような内容である。

住 民：農業や商業の支援は情報発信されているが、林業系の被害に対する補助、漁業関係の補助についての情報は現状発信が少ないと思っている。その点について教えていただきたい。

市 長：農業関係は多くの方が関わっているので、発信が多く感じるかもしれないが、林業・漁業についても上乘せの補助を行いながら1/10の負担でできるようになっており、市として手厚く支援したい。ただ、林道が崩壊しており現状把握も難しい状況であるが、年内に災害査定が受けられるように準備している。漁業については漁協を通じて従事者と相談しながら再建を支援していく。これからも継続的に情報発信に努めたい。

住 民：国道249号線中屋トンネルの復旧について、見込だけでも教えていただきたい。水道配管が破損して他市の水道局が修繕してくれたが、先日の雨の際に道路が陥没したため、水道局から連絡があったが、担当課が分からず対応に苦慮したので、対応をお願いしたい。

市 長：中屋トンネル部分は国が担当して現在工事中である。9月いっぱい片側交互通行ができるようになる予定である。少しでも早く復旧できるよう努力する。水道の件も現地を確認して対応をさせていただく。

住 民：輪島市でも生業の補助金をしてくれると聞いてよかったので、補助の割り増しについても教えてほしい。生業支援の条件として、現在建っている場所でしか再建ができないこととなっている。別の場所でも再建ができるようにしていただきたい。

市 長：上乘せ支援については、決まり次第、できるだけ早くお伝えしたい。

産業部長：生業支援の運用の見直しについては、随時行われているため、市長から国に要望をしているところである。

住 民：罹災証明について、2次調査が最終判定だと思っていたが、今後の台風被害で大きな被害があれば、震災の被害との区別をどうするのか。罹災証明書とはいつまで再調査ができるのか。

市 長：仮に台風で激甚災害の指定を受けるような大きな被害を受ければ、台風による判定を受けることになり、2次調査が終了している方でも申請は可能である。そうでなければ、地震での被害ということでは2次調査までの結果となる。

以 上

